研究成果情報（平成3年度）
部会名：生産環境（病害虫）

【情報名】抗除植物（クロタリアの1種）を利用したネコブンシュウ類
の制御技術

| 部門 | 農業環境 | 専門 | 作物虫害 | 分類 | 普及 | 県 | 生産者等

【実施機関名】三重県農政部、農業物産部
【連絡先】05984-2-6360

【研究】Crotalaria speciabilis（マメ科）を抗除植物として利用することにより、キュウリ等のネコブンシュウを制御できる。又これをすき込みことによって土壌枠理性的改善が期待できる。

キーワード：ネコブンシュウ、殺虫制御、Crotalaria speciabilis、抗除植物

【背景・ねらい】
キュウリではネコブンシュウ類抵抗性品種の利用など耕作制御技術が確立されていない。このため農薬に頼った防除が主流で、農薬地の土壌生態系の破壊を招く等の問題を生じている。このようなことから農薬に代わる防除法の一つとして抗除植物を利用した耕作制御技術を開発し、農薬使用量の低減を図る。

【情報の内容・特徴】
（1）Crotalaria speciabilisを6月頃、収穫60cm、株間30cmで定植し、2か月以上栽培することによってサツマイモネコブンシュウによるキュウリの根菌を防ぐことが出来る（第1表、第2表）。

（2）この植物はジャマネコブンシュウの密度を減少させる（第3表）。

（3）この植物はクリーニングクロップとしての価値は高く、むしろすき込みによる土壌理性的改良が期待できる（第1回）。又すき込みの方が抜取りよりキュウリの収穫率が高まる。

（4）この植物の栽培における施肥は元肥として窒素成分で5〜10kg/haaが適当である。

（5）この植物は発芽率が悪いため種子多様が必要である。種皮を剥げ、7〜8月の播種で10〜15日に適当である。

【情報活用上の留意点】
（1）欠株を生じやすいので、上記の栽培密度より多くすること。

（2）この植物は発芽率が悪いため殺虫制御効果に差がみられる（第4表）。

（3）スキネサレンシュウ、スキネカレンシュウの栽培植物となり、この発芽制御では栽培しないこと。

【具体的データ】

第1表 Crotalaria speciabilis 根菌密度の変更による殺虫制御効果の差（三重、平成2年度）

<table>
<thead>
<tr>
<th>訪問区</th>
<th>土壌中の根菌密度の推移</th>
<th>11/1の根菌の状態</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>採取前</td>
<td>11/11前</td>
<td>12/11</td>
</tr>
<tr>
<td>1回施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
<tr>
<td>2回施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
<tr>
<td>無施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【その他の特記事項】
研究課題名：抗除植物を利用した野菜・花の有効土壌殺虫虫の制御技術の開発研究期間：平成1年〜平成3年予算区分：地域重要新技術研究担当者：三重県、神奈川県、愛知県の担当者

- 125 -

【具体的データ】

第2表 Crotalaria speciabilis 根菌密度の変更による殺虫制御効果の差（三重、平成2年度）

<table>
<thead>
<tr>
<th>訪問区</th>
<th>土壌中の根菌密度の推移</th>
<th>11/1の根菌の状態</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>採取前</td>
<td>11/11前</td>
<td>12/11</td>
</tr>
<tr>
<td>1回施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
<tr>
<td>2回施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
<tr>
<td>無施用</td>
<td>1.25</td>
<td>1.15</td>
</tr>
</tbody>
</table>

【その他の特記事項】
研究課題名：抗除植物を利用した野菜・花の有効土壌殺虫虫の制御技術の開発研究期間：平成1年〜平成3年予算区分：地域重要新技術研究担当者：三重県、神奈川県、愛知県の担当者

- 126 -